



見分けてみよう！おいしいやさいど〜れだ？秋・冬

網野文絵

スーパーや畑でおいしいやさいを見分けるにはどこに注目すればいいのでしょうか？秋・冬が旬のやさいの見分け方をクイズ形式で学び、自分で選んだやさいを食べて、食育につなげることができます。（あぶた読書の家所蔵）

# 読書の家から

あぶた読書の家 (☎ 76-2100)

〔時間〕 10時～16時30分 〔休館日〕 木曜日、祝日

みずうみ読書の家 (☎ 76-2100〈あぶた読書の家〉)

〔時間〕 9時～17時 〔休館日〕 木曜日、祝日

洞爺総合センター図書室 (☎ 82-5111)

〔時間〕 9時～16時30分 〔休館日〕 なし

## 新刊案内

### ■あぶた読書の家

▲一般▽リンクと暮らせば（大崎梢）▽百年の時効（伏尾美紀）▽さらば！店長がバカすぎて（早見和真）▽本でした（又吉直樹・ヨシタケシンスケ）▽災害の季節（中山七里）▽あやかしたち（畠中恵）▽ブラックスワン（相場英雄）▽職分（今野敏）▽菊の慟哭（吉川英梨）▽神さまショッピング（角田光代）▽総理にされた男 第二次内閣（中山七里）▽どら蔵（朝井まかて）▽罪と罪（堂場瞬一）▽天上の火焰（遠田潤子）

▲児童書▽▽きつねのなくしもの（吉田誠治）▽おいしそうなおつきみ（間かせ屋。けいたろう）▽だじゃれいぞうこ！（うえだしげこ）▽のせるだけ！パパとどんぶり（宮沢うらら）▽まんがでことわざ・慣用句（ほんくん）▽いつつこうさぎとはなのゆうえんち（まつおりかこ）▽リリとネネのおばけパンケーキ（田島かおり）▽3びきの

### ■洞爺総合センター図書室

▲一般▽▽さよならジャバウォック（伊坂幸太郎）▽暁星（湊かなえ）▽しっぽのカルテ（村山由佳）▽鎌倉茶藝館（伊吹有喜）▽スピノザ診療室（夏川草介）

### ▲児童書▽▽注意読本（五味太郎）▽かがみピカピカ（新井洋行）▽わすれていいから（大森裕子）▽トドにおとけ（大塚健太）▽ぱくぱくやのぐっさんとネズ（すく良い）

### 絵本の玉手箱 1月のおはなし会 母子の冬まつり

■日時 1月17日(土)10時～11時30分

■場所 あぶた母と子の館

#### キッズタイム

■日時 1月24日(土)10時～11時30分

■場所 あぶた母と子の館

■対象 未就学児および保護者

■問合せ 佐藤 (☎ 76-2487)

## 地域おこし協力隊



### 通信

vol.92

今月の  
リポーター  
亀田 昇吾さん



これまでの記事で、「住民の暮らしの質の低下」が巡り巡って「観光地としての価値毀損」を招く構造を整理しました。今回は、この負の連鎖を断ち切り、洞爺湖町に希望ある未来を描くための「処方箋」について考えてみようと思います。

鍵となるのは、観光客と地域住民の利益を対立構造から「共存・循環構造」へと転換させる「仕組み」の構築です。

例えば、前々回の記事で触れた「宿泊税」。これを単なる徴収システムで終わらせず、その使途を「生活道路の整備」や「伝統祭事の継承」などに明確化し、住民がその恩恵を肌で感じる制度にすること。あるいは「空地・空家等の公益に資する利活用」や「地域通貨の流通促進」などを通じて、外資などに流出しがちな利益を町内で循環させるパイプライン

を太くすること。さらに、綿密なゾーニングやきめ細やかなまちづくりの仕掛けによって「観光の賑わい」と「生活の静寂」を住み分け、観光公害を緩和することも重要です。

「観光客が増えるほど生活サービスが充実し、地元の方々がそう実感できて初めて、観光客は「迷惑な存在」から「地域を支えるパートナー」へと変わります。この意識変容と信頼関係こそが、持続可能な観光地経営の正体であり、理想形です。その実現には、美しいビジョンと、きめ細かく柔軟な実行力が不可欠となります。これから一人の洞爺湖町民として、観光産業が生む富が地域内を豊かに巡る「循環のエンジン」を、具体的な事業として一つずつ実装していきたいと思います。